

1. 稲毛区利用状況中間報告（1月末時点）

- 1) 開館日数については、小中台公民館が9月中の工事による閉館のため270日。他300日の開館で年末年始の休館のみ。
- 2) 利用人数の内訳をみると、主催事業数の増加に伴い、利用者数が増加が際立つ館がある。また、文化祭の開催年度に当たり、前年度より利用者数が増加した館が多い。
- 3) 28年度からの利用者数の推移をみると稲毛公民館が漸減傾向、山王公民館が前年度より約1700人の増加。
- 4) 図書室の利用状況については、蔵書数は各館ともに廃棄を進め減少しているが、同時に新規購入図書は増加している。登録者数、貸出者数、貸出冊数ともにほぼ前年度並みとなっている。

2. 令和2年度公民館年度運営方針・事業計画重点項目等一覧

	公民館名	令和2年度運営方針	令和2年度事業計画 重点項目・特色	前年度からの改善点
1	小中台公民館	第5次生涯学習推進計画に基づき、学習活動のきっかけの提供、多様な学習機会の確保を通じ、学びを生かしたコミュニティづくりを目指す。	子育て世代を支援するため、「パパ・ママの救急法講座」を実施する。歴史講座及び文学講座を新たに開設し、多様なニーズに応える。	元年度のデコレーション寿司の応募が思わしくなかったため、クリスマスケーキ作りに変更する。
2	黒砂公民館	社会教育施設として、多彩かつ一層充実した内容の主催事業を実施し、地域住民に様々な学びの機会を提供する。また高齢者や子育て世代の方々の集いの場や子ども達の居場所とする等、公民館を更に広い世代の方々に利用して貰えるように努める。	主催事業「夢の箱」を充実させ、より多くの地域の小学生の参加を図るほか、予約が入っていない時間帯の部屋を中3以上の生徒・学生に開放し、受験勉強等の自習室として利用させる。また、買い物難民解消の為、駐車場の使用が許可されている移動販売車来館時に合わせ高齢者を対象とした地域住民交流事業を実施する。	常に受講者の評価が高い「歴史講座」に關し、地域の方々に身近な郷土史講座を設定し更に充実させるほか、「パパ・ママ救命教室」の拡充や新たな子育て関連講座を創設する等、子育て世代の公民館事業への参加を促進する。
3	轟公民館	誰もが楽しみながら学ぶことのできる、様々な学習機会の提供及び地域住民の自発的な学習活動を支援し、連帯意識等住みよい地域づくりを目指す。	親子の絆を深めることを目指し、親子で参加できる講座を2講座増やし、参加がみられない中学生講座を4講座企画した。また、地域に定着した事業を継続する。	アンケート結果を基に、参加者ニーズを把握し新しく12講座計画し、文化祭の無い年あたり、クラブの発表できる事業を展開する。
4	稲毛公民館	地域の皆さんの社会教育の場、学びの場として、各種事業に進んでご参加いただけるよう、事業内容のより一層の充実を図る。	郷土の歴史や伝統・文化について学ぶ事業、現代的な諸課題に対処するための事業、一般教養を高めるための事業等、計28事業を計画している。子供たちを対象にした防災教育も新たに1事業増やした。	事業実施後のアンケート結果や応募率を事業立案の際、参考にした。応募率の高かった情報機器の操作を学ぶ事業を、2事業プラスの4事業とした。
5	千草台公民館	わくわく楽学公民館をキャッチフレーズに、小学生から高齢者までともに楽しく学べる場所を目指す。これをもとに、①2%のイノベーション、②ニーズへの対応、③他機関との連携を図る。	わくわく楽学講座の実施。義務教育の教科学習を通して、各世代を融合した学びの場を設定した。地域とのつながりを重視、中学生対象の寺子屋や地域住民がくつろげるカフェを実施する。	地区文化祭を補充するために、春のミニ文化祭の実施。アンケートに応え、パン作り・ロシア料理などの実施。人気のあった勾玉作りの復活や新規に機織り講座の実施。
6	草野公民館	たくさんの方が集える公民館活動になるよう、地域住民を対象とした講座の拡充を図る。	幅広い年齢層に対応するため、家庭教育の講座を1事業増やし、たくさんの方が集える演奏会を新たに企画した。一般のニーズに応えた講座も4事業増やした。	アンケート結果を基に、希望の多かった教養を深める講座を企画したこと、関心の高い防災講座を企画した。土曜日学校との連携を継続する。
7	山王公民館	社会教育の場・学びの場・集いの場として、図書室も含め地域の方が利用しやすい公民館を目指す。また利用団体連絡会と連携しながら、サークル活動や文化祭の充実を目指す。	現代的課題（オリンピック・国際理解に関する講座）、子供の居場所づくり（長期休業中の講座）、地域のニーズ（高齢化に対応した講座）を柱に計画。また市内では比較的新しい地域なので、「地域を知る」ための講座を計画した。	事業後のアンケートや運営懇談会での意見を参考に、事業内容の改善や施設の整備を行う。また公民館ニュースなど広報活動を充実させ、地域に開かれた公民館を目指す。
8	都賀公民館	社会教育施設としての公民館の役割を「生涯学習の場」・「心豊かな人間関係づくりの場」・「住み良い地域環境づくりに役立つ場」としてとらえ、一層の内容の充実を図る。	利用者の拡大と促進を図るため、少年教育で3つ、高齢者教育で1つの新規事業を計画した。また「都賀公民館の図書室に行きたい」と言ってもらえる地域に密着した図書室経営を目指す。	利用者のアンケート結果に加えて、「不易と流行」を吟味しながら主催事業を計画する。図書室経営については、利用者の使いやすい環境づくりを心がける。
9	緑が丘公民館	館内外の環境整備を継続しつつ、ニーズや社会の動向等を見据え、多様な年代に向け、多様な事業を展開することにより、利用者減少に歯止めをかける。また、図書室運営の一層の充実を図る。	これまで好評を得ている事業を継続実施するとともに、各年代に対応するバランスのよい事業展開、さらに、将来の利用者となる子供向け事業の充実を念頭に運営をしていく予定。実施予定事業は昨年と同数。	各種事業展開及び図書室運営、そして、「公民館」を知っていただくためにも、広報活動を一層充実させるとともに、事業開催時期の適切化を図る。